

2. 2018年度 松川村観光振興策の提案

総合経営学部観光ホスピタリティ学科 山根 宏文

I. 松川村について

1. 松川村の概要

松川村は、長野県の北西部、北安曇郡の南端、安曇野の北よりに位置し、東西10.8km、南北7.3km、四隣は北及び北西部に大町市、南及び南西部に安曇野市、東は池田町に面している。北西部には北アルプス連峰の雄大な山々、このアルプスを源流として、高瀬川・乳川・芦間川・中房川といった一級河川が流れる自然豊かな村である。また西には安曇富士と称される村のシンボル「有明山」、その麓に広がり教科書にも載ったことのある神戸原扇状地が美しく広がり、その緑豊かな地で静かな発展を続けている。面積は47.08km²で比較的平坦な地形となっている。居住地の標高は約560mから670mに及ぶ。

また、当村の面積の約56%は森林、約25%は農地が占めており、国道147号線を境に東側は住宅地が集積し、西側は田園地域が広がり、西部山岳地帯はほぼ手つかずの森林地帯となっている。気候は、盆地であるため内陸性気候の特徴を示し、年平均気温は概ね11℃。夏は35℃を超える日もあるが清涼でしのぎやすく、冬は最低気温がマイナス13℃を超えることもあり、雪は少ないものの厳しい寒さとなる。また昼夜の温度差も大きく、降水量は多くない。

この恵まれた自然環境と四季折々の特徴と相まって、生活しやすい場所として古くから人々の生活が営まれてきた。2000年10月には、念願の人口10,000人を突破し、現在は村の総合計画に基づき、高齢化社会に対応した更なる福祉の充実や村民の生活環境整備を進めている。平成22年の国勢調査において男性の平均寿命が82.2歳で、国勢調査を行った当時の全自治体の中で日本一になった。年少人口(0~14歳)と高齢者人口(65歳以上)の推移をみると、年少人口は徐々に減少しており、昭和55年から平成12年の20年間に約100人減少している。一方、高齢者人口は約1,200人増加している。松川村の人口(国勢調査)は、平成17年には10,072人だったが、平成22年には10,188人とわずかながら増加している。松川村の人口構成を全国、

長野県と比較すると、65歳以上の高齢化率及び75歳以上の後期高齢化率は、いずれも全国や長野県より高くなっている。64歳以下人口が平成17年から平成22年までの5年間に減少しているのに対して、65歳以上人口は、同期間で増加している。高齢化率は、平成17年には24.1%だったが、平成22年には26.9%となり、5年間で2.8ポイント高くなっており、全国(23.0%)や長野県(26.5%)と同様に高齢化が進展している。生産年齢人口(15歳~64歳)・年少人口(0歳~14歳)ともに総人口に占める割合が減少傾向にあり、少子高齢化がますます進んでいる。今後はさらにその傾向が強まると予測される。

<http://www.vill.matsukawa.nagano.jp/>

<http://www.vill.matsukawa.nagano.jp/00/pdf/jisedaiikusei/jisedai-keikaku/dai2syoun.pdf#search=%E6%9D%BE%E5%B7%9D%E6%9D%91%E5%9B%BD%E5%8B%A2%E8%AA%BF%E6%9F%BB>

<http://www.vill.matsukawa.nagano.jp/02/pdf/kenkouzoushinkeikaku.pdf>

2. 観光資源

1) 安曇野ちひろ美術館、安曇野ちひろ公園

安曇野ちひろ美術館は絵本作家「いわさきちひろ」の作品をはじめ、世界の絵本作家の作品を見ることができる美術館で、美術館にある「トットちゃんの部屋」では、年に4回開催される企画展や、ワークショップが行われている。

また、安曇野ちひろ美術館の周辺には北アルプスの山並みを背にした緑豊かな公園「安曇野ちひろ公園」が広がっている。安曇野ちひろ公園は『「食」「農」「いのち」について体験的に遊び・学べる場所』がコンセプトになっている。

季節ごとの野菜を中心とした収穫体験ができる「体験農園」や、北アルプスの風景や春には野鳥の観察ができる「雑木林ゾーン」、体験農園の野菜や、松川村の食材を使って地域の方と一緒に郷土食づくりなどの体験ができる「体験交流館」などがある。

トットちゃんの世界が表現されている「トットちゃん広場」では『窓ぎわのトットちゃん』のトットちゃんが通っていたトモエ学園の世界を見るこ

とができ、物語をたどりながら散策を楽しんだり、トットちゃんのお話にちなんだイベントも開催される。

2) すすむし荘

すすむし荘は松川村が「松川村温泉施設の設置及び管理に関する条例」に基づき、「地域住民の福祉と健康増進に寄与するとともに農林漁業体験を伴う都市交流等を通じて地域活性化を目指し、保健休養及び触れ合いの場」として設置した温泉施設である。全国的にも貴重と言われている薬効の高い「天然ラドン」を含んだ温泉や、「すすむしの里」と呼ばれる松川村ならではのすすむしの音色、松川村の農家から仕入れた旬の野菜や米、すすむし荘の周りに広がる北アルプスや田園風景など、魅力的な要素が多くある。さらに周辺にはりんご、いちご、ブルーベリーなどの収穫を楽しめる体験農園があり、すすむし荘でもそば打ち、味噌作り、野沢菜漬け作り、断食体験など、様々な体験プログラムがある。

3) 国営アルプスあづみの公園

国営アルプスあづみの公園は「自然と文化に抱かれた豊かな自由時間活動の実現」をテーマとしてオープンした。現在では大町・松川地区の「自然体験ゾーン」と堀金・穂高地区の「里山文化ゾーン」に分かれている。大町・松川地区では、「センターゾーン」、「保全ゾーン」、「林間レクリエーションゾーン」、「溪流レクリエーションゾーン」、「自然体験ゾーン」の5つのゾーンがある。

(各ゾーンの説明省略)

4) 道の駅安曇野松川

道の駅安曇野松川「寄って停まつかわ」には、特産品販売所、産地直売所、レストランがある。特産品販売所では池田町の酒蔵「大雪溪」の大雪溪箱入りギフトや苺酒、さしみこんにゃく、青唐辛子や野菜がアクセントのとっからこしょうみそ、新米、あかしの花みつ、おやきやりんごジュースをはじめ、いわさきちひろグッズや、すすむしのりん太くん・リンリンちゃんのグッズなど、松川村ならではの土産が販売されている。産地直売所では、その季節ならではの農家で採れた野菜や果物が並んでいる。レストランでは、丼物、定食、麺類など合わせて10種類以上の食事を楽しむことができ、ランチメニューなどの用意もある。また、手打ちそばや地ビール、ふじりんごソフトなど、おいしい地元メニューも味わうことができる。

5) 馬羅尾高原

馬羅尾高原は有明山のふもとに広がる高原で、緑の木々と、近くを流れる芦間川の清流に恵まれ、豊かな自然に囲まれている。森林浴を楽しめる散策路や、キャンプ場、マレットゴルフ場、アスレチック、運動広場(ソフトボール1面)などが整備された複合施設で、散策路には天照大御神が身を隠したと言われる「天の岩戸岩」があるなど、「天の岩戸」伝説が絡む霊山・有明山の麓にふさわしい神聖な森である。北アルプスの真ん前にそびえる里山、有明山・雨引山への登山口でもある。有明山は「信濃富士」や「安曇富士」とも呼ばれ安曇野を象徴する山として親しまれており、天照大御神の天の岩戸神話にまつわる伝説をはじめ、神話や伝説の舞台となることもあった。標高の割に登るのは難関と言われているが、山頂からは美しい安曇野を展望できる。雨引山は標高1,371mで、気軽に登ることができ、山頂へはゆっくり登って2時間ほどで到着できる。山頂には麓の大和田神社の奥社が祀られており、雨乞いの山として古くから里人の生活と関わってきた。山頂からは有明山や北アルプス、神戸原の素晴らしい景観を眺めることができる。

6) 体験農園

松川村には気軽に農業体験をすることができる農園がたくさんある。例えば、りんご狩りとブルーベリー狩りを楽しむことができる「浅野農園」。この農園では、通年でリンゴの木のオーナーを募集している。また、いちご狩りを楽しむことができる「かほちゃやま農場」や、サンふじりんごを中心に直売や宅配などのサービスもある「久保田果樹園」、季節によりシナノレッド・さんさ・ツガル・シナノドルチェ・秋映・シナノスイート・シナノゴールド・陽光・サンふじなどの様々な品種のりんご狩りを楽しむことができる「北條農園」など、それぞれ違う魅力を持った農園が揃っている。

3. 松川村のイベント・祭り

1) まつかわ花咲きまつり(3月下旬)

村内の公園や駐車場を会場に開催される祭り。実行委員や小学生が中心となって、村内の鉢花を生産する方々が大切に育てた約4万鉢100数色のパンジーのポットを並べ、その年ごとに決められた絵画やキャラクターなどの、20数メートルにおよぶ大きな地上絵が作成される。また、パンジーの即売会も行われている。

2) 松川ふるさと祭り(8月)

8月第1週の週末に行われる村民総参加の夏祭り。模擬店や、お楽しみ抽選会、踊りの輪、ちびっこ広場のほか、特設ステージで松川響岳太鼓演奏など、毎年多くの催しが行われている。

3) 池田・松川高瀬川納涼大花火大会(8月)

平成9年より池田町との合同で開催されている花火大会で、夜空と地上を照らすスターメインや尺玉がおよそ2,000発打ち上げられる。

4) すずむしの里 クリスタルシンフォニー(8月下旬～9月初旬)

8月下旬から9月中旬まで、有明山社やすずむし荘付近の道路に灯籠が灯される。すずむしの声を聴きながら、過ぎゆく夏を惜しむという「すずむしの里」松川村ならではのイベントになっている。

4. 松川村の特産品

1) 鈴ひかり

鈴ひかりは北アルプスの山々から流れる清流と、肥沃な大地、朝夕の寒暖の差が大きい内陸性気候など、米作りに適した環境が揃った松川村で育てられたお米である。松川村は自然のすずむしが生息する数少ない土地で「鈴虫の里」とも呼ばれており、そこで生まれたコシヒカリであることから「鈴ひかり」と名付けられた。

2) 手作り味噌

昔から松川村の家庭で仕込まれてきた手作り味噌の技術を応用し作られた無添加味噌で、地元産の素材にこだわり、松川産のコシヒカリと安曇野の大豆を使用している。

3) 黒豆シリーズ

こんがり煎った福々豆のほか、黒豆ねじり、黒豆チョコ、黒豆茶、黒豆しょうゆなど多くの商品がある。黒豆は粒が大きく、緻密な肉質から生まれる食感や、豊かな甘みとコクが楽しめる「玉大黒」が使用されている。

4) りんご

ツガル、シナノゴールド、シナノスイート、秋映、フジなど、全国的にも人気があり、農林水産賞をはじめ様々な賞を受賞している。

5) おやき

固めに練った地粉で野菜やなす、だいこん、おから、あんこなどの地元で採れた食材を包み込み、蒸したり、ほうろく鍋で焼き上げたもので、皮が硬いものや、柔らかいものなど、大きさや味も様々である。

6) 田鯉のすずめ焼き

鯉を背開きにして焼き、油で揚げた料理。先人がすずめを背開きに解体して焼いて食べた様から名付けられた。昔は秋祭りに振る舞うという習慣もあり、古くからこの地区に根付いた伝統食である。

II. 日本における農業体験の歩み

1) 平成4年 欧州型の余暇活動をモデルとしたグリーン・ツーリズムの提唱

農林水産省に設置されたグリーン・ツーリズム研究会中間報告で、欧州では農村に滞在しバカンスを過ごすという余暇の過ごし方が普及している状況を踏まえ、グリーン・ツーリズムを「農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動」として定義し、その推進を提唱した。

2) 平成6年 「農山漁村余暇法」成立

〈法律の目的〉

①ゆとりのある国民生活の確保と農山漁村地域の振興に寄与するため、農山漁村滞在型余暇活動のための基盤の整備を促進すること

②農村滞在型余暇活動に資するための機能の整備を促進するための措置、農林漁業体験民宿の登録制度を実施すること

〈グリーン・ツーリズムの教育的ニーズ〉

こうした農林漁業体験民宿業での農山漁村体験にマッチしたのは、小学生を中心とする教育旅行のニーズであった。

3) 平成8年 子ども農山漁村交流プロジェクト

2008年度から、農林水産省だけでなく、文部科学省、総務省も一体となって「子ども農山漁村交流プロジェクト」が始まった。これは、子どもたちの学ぶ意欲や自立心、思いやりの心、規範意識などを育み、力強い成長を支える教育活動として、小学校における農山漁村での長期宿泊体験活動を推進するものであった。

〈課題〉

プロジェクトの発足から10年がたち、受け入れる農家民宿の経営者も高齢化し、受け入れが困難。地域自体も疲弊している状態は変わらず、人口の減少、担い手の減少を食い止める手段を模索しつつあったことが、農泊推進の土壌。

4) 平成29年 「農山漁村振興交付金(農泊推進対策)」の公募を開始

「農泊」を農山漁村の所得向上を実現する上で重要な柱として位置付け、「農山漁村振興交付金(農泊推進対策)」の公募を開始。主要観光地に

集中しているインバウンドを含めた旅行者を農山漁村に呼び込み、宿泊者の増加や農林水産物の消費拡大を図るためのもの。2020年までに農泊地域を500地域創出するとの目標に向け、「農泊」をビジネスとして実施するための現場実施体制の構築、地域資源を魅力ある観光コンテンツとして磨き上げる取組等がその支援の対象。

※各詳細については省略

Ⅲ. 国内の農業体験事例

〈農林水産省の定める農家民泊〉

農家や漁家が経営する民宿で、趣のある古民家や囲炉裏がある家庭で泊まることもできる。農家が生産した農産物や地域の食材を用いた料理が味わえるだけでなく、農家の暮らしをそのまま体験することも可能。また、農山漁村の風景に癒されながら地元の人と語り合い、郷土料理作りや工芸品作りなど様々な体験ができる。

〈農林水産省の定める農業体験〉

田植えや稲刈り・野菜の収穫・牧場での乳搾り・山菜狩りなどの農林業体験、海釣りや地曳網などの漁業体験、バター・ソーセージ・ジャム・スイーツなどの加工品作りやそば打ちなどの体験、和紙やわら細工などの手作り体験、炭焼きなどの生活体験など、農山漁村には様々な楽しみがある。

(引用：農林水産省<http://www.maff.go.jp/index.html>)

1. 農業体験の分析

(1) 人気体験予約サイト「TABICA」について

「TABICA」の特色

観光体験参加者 30～50歳代が90%、1人での参加率58%、女性の比率が88%。

コンセプト：「地域の暮らしを旅する」

目的：体験を提供する地元のホストと、それに参加する観光客を繋げることを目的としたもの。

体験の内容：約600種、多種多様で、体験のタイトルの一部を紹介すると「田舎のじいちゃんと、自然農園で遊ぼう&田舎飯作り体験!」「田舎暮らしの実態を知る」「マイペースに山暮らしを楽しむ方法は?」「農ある暮らし1DAYリトリート【春分編】味噌づくり」「摘みたてよもぎでお餅をつくり、春の里山を五感で堪能する旅」も

ち米農家さん宅でおもちをついて、食べよう!」など、農の暮らしをテーマにしたものが多い。

2. 人気商品の分析

人気体験予約サイト「TABICA」の自然体験カテゴリ内、農業体験タグの付いたものから人気順10位までに入っていたホスト(体験者からのレビューが投稿されているもの)を抜粋。(平成30年12月4日現在)

- ①町田おおりりファーム(東京都町田市)
- ②アレックス農園(神奈川県横浜市青葉区)
- ③えがおファーム(埼玉県坂戸市)
- ④山内ぶどう園(東京都調布市)
- ⑤山根富佐郎さん(神奈川県横浜市)
- ⑥一般社団法人 畑会(東京都八王子市)
- ⑦イナカプロジェクト(埼玉県見沼区・千葉県鴨川市)
- ⑧多久市観光協会(佐賀県多久市)
- ⑨古閑勝己さん(佐賀県多久市)

※分析内容省略

3. 人気ある(TABICA)農業体験の共通項

- ①旬の野菜収穫体験、食する、料理教室・アウトドアクッキングなどができる。
- ②農業体験できる野菜は有機無農薬が多い。
- ③食育(野菜について、食の大切さ)について学ぶことができる。
- ④ユニークな体験が多い。
その地域のホスト達がそれぞれ企画したプランを、ホスト自身が運営。
- ⑤文化・歴史も学ぶことができる。
- ⑥親密な交流がある。
人数規模はおおよそ5～20人と比較的少なく、通常の観光と比べ親密な交流ができる。
- ⑦野菜嫌いが好きになる試みがされている企画がある。
- ⑧ホストの気遣い・安心安全
体験を提供するホストは認証された人だけであり、事故や損害から守るための保険が用意されている。
- ⑨気軽に体験することができる。
体験は3,000円程度の料金で2～3時間。現地集合、現地解散。
交通の便が良い(最寄りの公共交通機関から徒歩15分圏内の場所で開催されるものがほと

んど)。

- ⑩体験参加者の形態に適した体験を選べる。
親子で一緒に、女子旅、一人で行きやすい、友達と一緒になど。

4. その他の体験 農泊ポータルサイトより

農林水産省が紹介する農泊ポータルサイト「nouhaku.net (https://nohaku.net)」では、国内で行われている農泊体験が紹介されており、以下の表ではその中の一部を紹介する。

※表省略

IV. 農家民泊

1. 「農林漁業体験民宿」について

農山漁村地域には、ホテル・旅館・ペンション・民宿・キャンプ場など、宿泊のできる場所がたくさんある。特に、農林漁業体験活動を通じて農山漁村の人・もの・情報と深く触れ合うことができる農林漁業体験民宿は、都市と農山漁村の人々を結ぶ架け橋として、重要な役割が期待されている。

農林漁業体験民宿には、個人の営む小さな民宿から公設の大きな施設まで様々な規模のものが含まれるが、それらはグリーンツーリズムの推進にとって欠かせないものとなっている。農山漁村休暇法では、このような農林漁業体験民宿業の推進を図るための登録制度を設けており、平成17年の農山漁村休暇法の改正に伴って登録の仕組みが見直されたところである。

平成17年の農山漁村余暇法の改正に伴い、農山漁村余暇法に定める登録基準を満たせば誰でも農林漁業体験民宿業者の登録実施機関の登録を受けることができるようになった。

まちむら交流機構登録の農林漁業体験民宿には、農林水産大臣の承認を得て定められた標識が提示されている。

都道府県は、良好な農村景観を形成している地

域について、農村滞在型余暇活動のための機能の整備に関する基本方針を策定。国及び地方公共団体は、市町村長の認定を受けた計画に従って農業者及び農業者団体が農作業体験施設等を整備するのに必要な資金の確保又は融通の斡旋に努力。農林水産大臣の登録を受けた登録実施機関が、農林漁業体験民宿業者に係る登録業務を実施している。

2. 農家民泊について

(1)民泊とは

民泊とは、「旅館業法」に基づく“簡易宿泊営業”のことを指す。その中に農林漁業体験民泊(農村余暇法第2条5項に定義される「施設を設けて人を宿泊させ、農林水産省令で定める農村滞在型余暇活動又は山村・漁村滞在型余暇活動に必要な役務を提供する営業をいう。))として区分される。

- ①農家民泊…農林漁業者によるもの
- ②体験民泊…農林漁業者以外の個人・団体によるもの

客室延床面積が33㎡未満の小規模な農家民泊は、一般の民宿に比べて開業しやすくなっている。

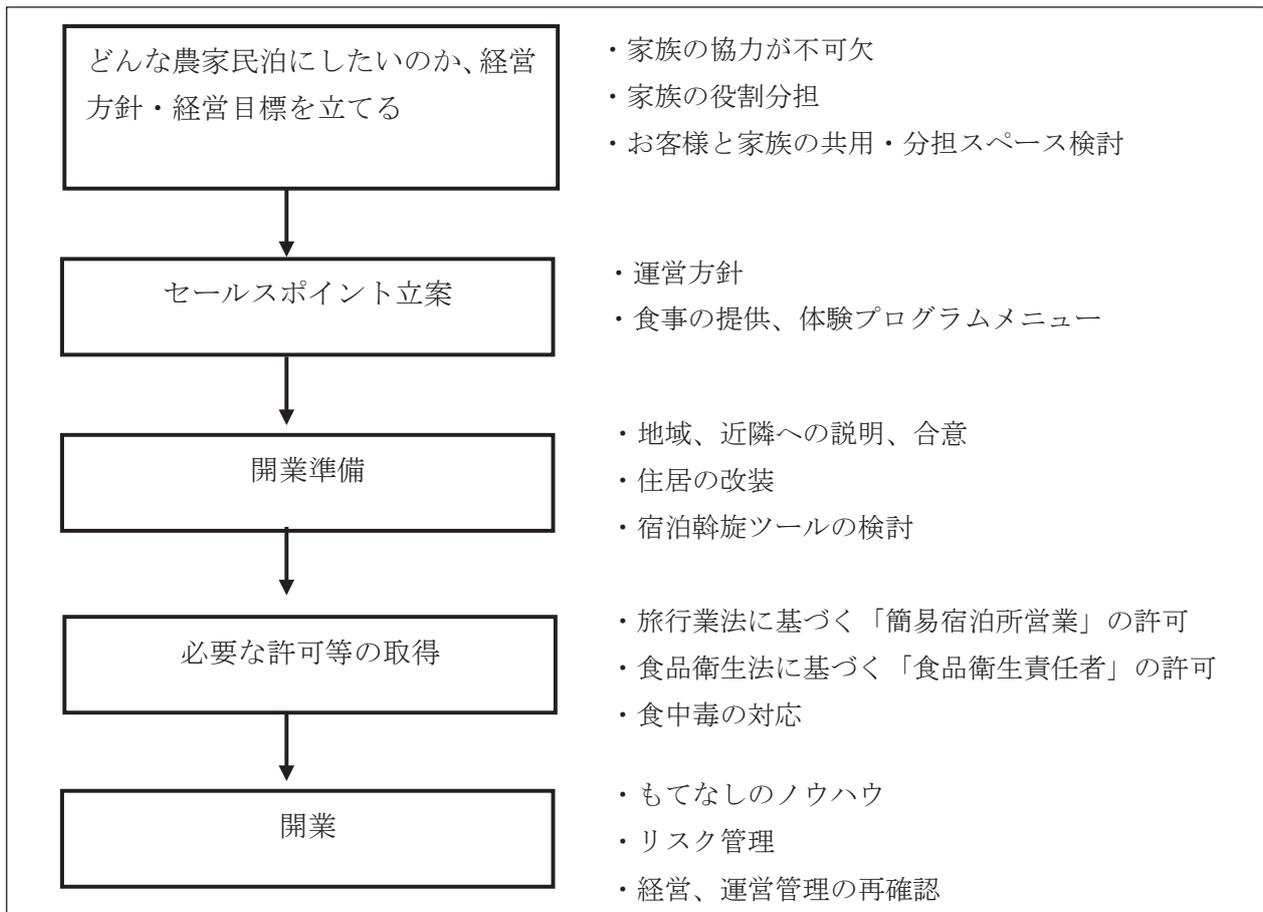
(2)農家民泊の魅力

- ①生産者にとって
 - ・自らの特技を生かすことができる。
 - ・地域と自らの生産物を消費者に時間をかけてアピールできる。
 - ・人とのふれあいができる。
- ②消費者にとって
 - ・日ごろ体験できない体験が気軽にできる。
 - ・のんびりとした時間を過ごすことができる。
 - ・人とのふれあいができる。

農家民泊の位置づけ

形態(呼称)	規模	経営者	客室延床面積	農林漁業体験の提供
農家民泊	大規模	農林漁業者	33㎡以上	提供する
	小規模	農林漁業者	33㎡未満	提供する
体験民泊	—	非農林漁業者	33㎡以上	提供する
民泊	—	—	33㎡以上	提供しない

(3) 農家民泊の開業に至るまでの行程



3. 人気のある農家民泊

体験予約サイト「STAY JAPAN(注2)」上に掲載されている農泊体験から、人気の農家民泊を抜粋。(平成30年12月11日現在)

- ①簡易宿所 タマキハウス(沖縄県国頭郡今帰仁村)
 - ②農家民泊未来農園(和歌山県田辺市上秋津)
 - ③農家民泊駒木の家(青森県三戸郡三戸町)
 - ④民宿 三澤(岩手県一関市)
 - ⑤農家民宿 結(群馬県利根郡みなかみ町)
 - ⑥民宿 まるみ(沖縄県国頭郡今帰仁村)
 - ⑦農家民泊 赤がわらの家(沖縄県名護市)
 - ⑧農家民宿 素づくり亭(岩手県遠野市)
 - ⑨若葉農園(和歌山県紀の川市)
 - ⑩民宿 新栄館(愛知県知多郡美浜町)
- (人気の分析内容省略)

4. 人気のある農泊の共通項

- ①歴史ある建物・昔ながらの古い建物・ユニークな宿泊施設
- ②魅力的(個性的・歴史的・田園)な地域にある

③郷土料理・手料理を楽しめる

採れたての野菜や山海の幸を使った料理・その地域の郷土料理などを食べることができる。ホストの温かい手料理が食べられる。

④昔ながらの生活文化体験ができる

- ・ 特別な体験ではなく、地方の普段の暮らしや昔懐かしいもの、その地域特有の体験子供に農業体験をさせたい・昔ながらの遊びを体験させたい。
- ・ 流しそうめんや餅つき、栗拾いなど昔ながらの体験ができる。

⑤ユニークな体験

- ・ 地方の長閑な風景の中を散策、虫や動物の観察・触れ合いや星空観察ができる。

⑥ホストのホスピタリティ

- ・ ホストからその土地の話(歴史・文化・観光地について・暮らしについて)を聞くことができる。
- ・ 体験で収穫した野菜や果物を持ち帰ることができる、お土産として貰うことができる。

⑦交流

- ・現地の人や参加者と交流ができる。
- ⑧癒される
 - ・都心部に住んでいる人は喧騒から離れた場所でゆっくりしたい・日常とは違う自然の中でリフレッシュしたい。
- ⑨リーズナブルな料金
- ⑩アクセスの良さ
 - ・公共交通機関を使って行ける、車で行きやすい、観光地や駅に近いなど、交通の便が良い。

V. イタリアの農を活かした観光振興

1. イタリア スローフード

スローフードとは1986年にイタリアのローマを代表する観光地であるスペイン広場にファストフード店(マクドナルド)ができたことを発端にファストフード的な食のあり方、すなわち、郷土に根付いた農産物、文化、地域の郷土料理や調理法が失われ均質化してしまうこと、その土地にしかない郷土料理を味わいながら親しい人たちとコミュニケーションを行う緩やかな時間の喪失、食への興味・関心の減退を危惧し、始まった社会運動である。(参考資料: <http://www.slowfood-nippon.jp/resources/>)
(※中略)

スローフード協会は、周囲の生態系と調和する地域コミュニティの知恵を基礎にした農業こそが、特に世界の最も貧しい地域において発展の可能性を持つと考えている。そして、伝統的かつ環境に配慮した所品や原材料を守り、耕作法、加工法を維持し栽培種及び野生種の生物多様性の保護に努めている。

- そして、3つの方向として「食を守る」「食を支える」「食を教える」具体的な活動を繰り広げている。
- ・「食を守る」: 消滅した、あるいは消滅しつつある土地固有の伝統的食材、料理方法、質の高い食品、そしてワインを守ること。
 - ・「食を支える」: 伝統的品種、本物の食材を育てる零細な農家を助け、貴重な料理法を受け継ぐ人を応援し、地域の食品を提供する零細な生産者を支えること。
 - ・「食を教える」: 子どもを含め、一般の消費者に本物の味、土地固有の味、五感を使った食育を教えること、である。

(参考資料: なぜイタリアの村は美しく元気なのか 著 宗田好史)

2. スローフードが行っている「食育」の事例

①大人向けの講座

「食材の選び方・食品表示の読み方、その地域で採れた、旬のナチュラルな食材の選び方などを学ぶ」

野菜や果物、アルコール、調味料など、24種のコースからなる講座や味覚ワークショップがある。例えば、地方に伝わる伝統的なパンについての講座というものがある。パンといっても各地方によって作り方も形も違い、結婚式など特別な時にしか食べないという貴重なパンの紹介もあり、紹介されたパンを試食することもできる。また、日常食べる食事について、食材の選び方・食品表示の読み方、その地域で採れた、旬のナチュラルな食材の選び方などを学ぶ講座も設けられている。

大人向けのイベントとして、会場内だけではなく、トリノ市内およびピエモンテ州にあるレストランでの晚餐が楽しめることもできる。

〈特徴〉

- ・消費者が安心安全な食品を選択する方法を学び、主体的に選択・購入できる。
- ・市内のレストラン等との連携も含めて、食を楽しむという点で啓発を推進できる大きな機会になる。

②子供向けの講座 「五感で楽しむ食」

子供向けの講座では、食材を隠した箱に「手を入れたり、匂いをかいだりして、その中にある食材を当てる」というゲームがある。当たればおもちやが獲得できる他、スローフードをテーマに絵を描かせ、良いものだとスローフードキッズカードのデザインにする。

また、身近な食品(チーズやチョコレートなど)を使い、子供たちに①見る→視覚②触る→触覚③聞く(音)→聴覚④におい→嗅覚⑤味→味覚の「五感」で感じさせ言葉にして五感の項目が描かれたシートに書かせるというゲームがある。

こういった機会を通して、ゲーム感覚で子どもたちに食に関する興味を湧き立たせ、「五感」を感じた食の体験を増やしていけるようプログラム作りが工夫されている。

〈特徴〉

- ・知識だけではなく、子供たちに実際に調理をさせることで、想像力や創作性を発揮させる。
- ・生産者から食べ物の生産から過程までを教えることで、誰が栽培し、いつ栽培・収穫されるのか、どうやって自分たちの食卓に届くかの一連

のルートを学ぶことができる。

- ・「調理をして食べる」ということは、単に生命活動に必要な栄養素を摂るためということだけではない。食物を選ぶ→調理する→盛り付ける→食べる→会話する→後始末をする、という一連の行為は、生きるために必要な環境適応能力を身につけるのにとっても役立つ。

(参考文献：https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjda/52/2/52_2_125/_pdf/char/ja)

(引用資料：イタリアにおける食育のかたち「食の祭典サローネ・デル・グスト」)

③保育園での味覚教育園庭を利用した菜園と郷土食給食

味覚教育で最も重要な位置を占める「学校菜園の設置・運営」プログラムの導入は、保育園においても同じ。0～3歳児を預かるプラート市の公立保育園では、園庭の一角に「オオカミの庭」と名付けた菜園を作り、園児がキュウリやレタス、ナス・インゲン・ズッキーニなど栽培・収穫して2人の専属のシェフが朝食・昼食・おやつを作り味わっている。

〈具体例〉

1歳6ヶ月児からの菜園活動(マッサーローザ町保育園)

3ヶ月児～3歳児を預かるデル・マグロ保育園では、1歳6ヶ月になると菜園活動に参加する。本格的な農具を使い、土を耕し、種をまく。トスカナ地方の伝統産業である農業に従事していた地域のお年寄りが、作物にまつわる言い伝えを園児に教えるなど、菜園活動に協力している。

地産地消給食(テッラヌオーヴァ・ブラッチョリーニ市保育園)

市の調査では、「保育園に通っていた子どもは自主性が高く、両親に敬意を抱く傾向がある」。この結果を受け、1日のうち2食を賄う保育園給食の重要性を認識した市は、食材を地元生産者から直接購入することに。品質の確保とコスト削減、地域経済へ還元を図っている。

小学校での味覚授業 郷土の生産物を味わう(プラート市小学校)

プラート市が公立の小学校に導入している味覚教育プロジェクトのうち、中心となっているプログラムが、「学校菜園」と「味覚授業の導入」。チェーザレ・ガステイ小学校の5年生は、この1年間、「午前中にフルーツを食べよう」というテーマで授業を行っていた。

④行政の取り組み

おいしい学校プロジェクト(ヴィアレッジ市)

トスカナ州ルッカ県ヴィアレッジ市は、地中海に面した海辺のリゾート地。同市が取り組んでいる味覚教育は「おいしい学校プロジェクト」と名付けられ、地元生産者・学校給食サービス会社を巻き込み、様々なプログラムを展開している。

- ・園児向けプログラムのひとつ「おさかな教室」。船着き場で漁師が獲ってきた魚介類を手解する。調理したスズキを漁船で試食。魚嫌いの解消と地域食材への理解を図っている。
- ・おいしい学校プロジェクトの一環で、学校給食委託業者も郷土食や地域食材を給食に導入
- ・学校給食に出される豆のスープやオリーブオイルから、児童は地域食材や郷土食を意識する。

(引用文献：<http://gwc-food.net/project/agreement.html>)

〈特徴〉

○食料の生産・流通を学ぶ

- ・自分たちが栽培・収穫した野菜や、船に乗って獲った魚介類などを食べることで、食料の生産・流通にあたる人々の努力をより身近に理解できる。

○味覚・栽培・料理法の伝承

- ・郷土食の味を小さい頃から舌で覚えさせ、教師や親や地域の人々と一緒に調理することで料理の味、料理法の伝承に繋がる。また、昔から伝わっている伝統的な農業を学び、栽培することで農法の伝承にも繋がる。

○地域交流

- ・地域のお年寄り、生産者、シェフ、漁師などと出会う機会が設けられているので、交流によってより深い地域の繋がりができる。

○食に理解ある消費者を育てる

- ・子どもたちが大人になった時に自分の力で食べ物を選択ができる消費者へと導く。

3. アグリツーリズム

①アグリツーリズムとは

アグリツーリズム(agriturismo)とは、イタリア語で農業を意味するアグリコルトウーラ(agricoltura)と観光を意味するツーリズム(turismo)を合わせた造語である。都市部の住民や海外からの旅行者が郊外にある農家、レストランを兼ね備えたホテルで1週間ほど滞在し、農業体験をしたり、経営者が育てた豚や鶏、野菜を使った家庭料理を食べたり、休暇・余暇を過ごすことである。

〈アグリツーリスト協会〉

1965年2月10日に中西部のトスカナ州の農業経営者シモーネ・ヴェッルーティ・ザーティが主体となり、ローマに「アグリツーリスト協会」が誕生した。

協会はイタリアの農家の所得改善、農村文化、社会的役割の向上食文化向上に貢献。また、「アグリツーリスト品質」のマークをつけた農作物の品質保証のシステムを完成させた。

②アグリツーリズムの現状

イタリアのアグリツーリズムの施設の数には19,700軒、年間271万人利用。一人平均4.5泊。日本の農家民泊総数は2,000軒と日本はイタリアのアグリツーリズムの割程度とまだ極めて数が少ない。(2010年)

農家の一部を、宿泊施設にする新ビジネスに転じた場合、銀行からの融資もかなり有利な条件で受けやすく、税制面でも、他のビジネスより優遇される。そのため、貧しい農家だけでなく、ベンチャー・ビジネスとして始める人たちも増加している。

(参考文献：中部アグリツーリズムの旅 著千厩ともゑ)

③アグリツーリズム事業

自ら所有し耕作・造林・家畜飼育する農地で行い、その農業活動の一環としてその農地で行われる接客事業である。

- ・自然主義、景観的社会的な要素によって特徴付けられる地域の絶景が資産
- ・田舎の環境や文化、伝統、地域の農業生産や特産物の有効活用や価値付けの企画を通じて実践
- ・国の農業政策の中で自然の資源と共存可能な発展に則した規定で定められた観光。

④アグリツーリズム法

「アグリツーリスト協会」が設立された後、農業活動の副次的な位置づけとされ地域環境の価値を高め、雇用増進に寄与する、地元の農家で作られた食材や農業製品、地域の伝統的農業加工品を優先的に供給することを目的に1985年に国レベルでの法律が制定された。(法令1985年第730号)

現在の法令は2006年に発布(法令2006年第96号)され、法的な裏づけによる定義や活動内容が整備され、農家たちに明示している。

以下は、こうした法・条例に基づくアグリツーリズムの定義とその活動内容に関する規定の一部である。イタリアの農家の経済的困窮を救うために、国家政策の一環として確立された。

(※規定省略)

⑤イタリア アグリ・ツーリズムの特徴・こだわり

- 非日常を演出
 - ・日々の日常を忘れられるような空間を創出
- 美しい景観
 - ・美しい農村の景観を維持・保全にとっても力を入れている。
 - ・美しい農村で四季折々のイタリアの田園風景を見ながらゆったりと過ごし、その土地の食材と料理、美酒を楽しむことができる。
- 多様な宿泊施設
 - ・施設が多様な点、事情の異なる農家に即したバリエーションがある。例) B & B、アパート、ビラなど
 - ・農家の建物を宿泊設備として改修し田舎の素朴でシンプルなサービスでもてなしている。
 - ・使われなくなった施設や歴史が残る建物(修道院の建物など)を改装して宿泊施設にしていることで、の再利用や景観保全に繋がる。
- 地産地消・安全な食
 - ・アグリツーリズムで提供する料理はすべてその地で栽培された食材利用を義務づけられており、地産地消を徹底している。
 - ・すべての食材は「伝統的食料品リスト」中の製品であるため安心安全な製品が多い。
 - ・地元の食材を使って、手が込んだ手作り料理を楽しむことができる。
 - ・観光客には様々な農作業の現場を見せることで、純粋なオーガニックな生産工程を見せて、食材の味を確認してもらう。
- 料理教室と教育農園
 - ・レストランのシェフを呼びアグリツーリズムの自家菜園で採れた食材を使った本格的なイタリア料理を学ぶことができる料理教室。
 - ・子供たちを対象とするプログラムとして農業の多様な側面やワインを始め蜂蜜やチーズ、サラミなどの食品製造過程を体験できる「教育農園」なども実施されている。
- 地域特有の体験
 - ・地域の特性を活かした多種多様なアクティビティが勢揃いである。
- 地域の伝統文化の紹介・展示

VI. これからの農泊(農山漁村滞在型旅行)

「観光立国推進基本計画」(平成29年3月28日閣

議決定)や「未来投資戦略2018」(平成30年6月15日閣議決定)などでは、「農山漁村滞在型旅行をビジネスとして実施できる体制を持った地域を平成32年(2020年)までに500地域を創出する」としている。
 〈従来の農泊〉

- ・ホームステイ型で「教育旅行の受け入れ」が中心。
- ・教育の一環として中高生などを農家に受け入れて農業体験を実施。

課題：農家の高齢化。後継者不足

〈今後の振興策〉

2017年の訪日外国人による旅行消費額は約4兆4,000億円、うち宿泊及び飲食消費額は2兆1,000億円。消費が農泊によって地方にも流れ、農山漁村における持続的なビジネスとして成立し、活性化していくことを目指している。

〈農泊の歩み〉

(内容省略)

VII. 国が農泊を推進する理由

観光庁の2017年度訪日外国人動向調査の中で、訪日外国人が「次回したいこと」として「自然体験ツアー・農漁村体験」15.6%。2017年の訪日外国人による旅行消費額は約4兆4,000億円。うち宿泊及び飲食消費額は2兆1,000億円。消費が農泊によって地方にも流れ、農山漁村における持続的なビジネスとして成立し、活性化していくことを目指している。

図1：訪日外国人の消費動向調査結果
平成29年度年次報告書(観光庁)より

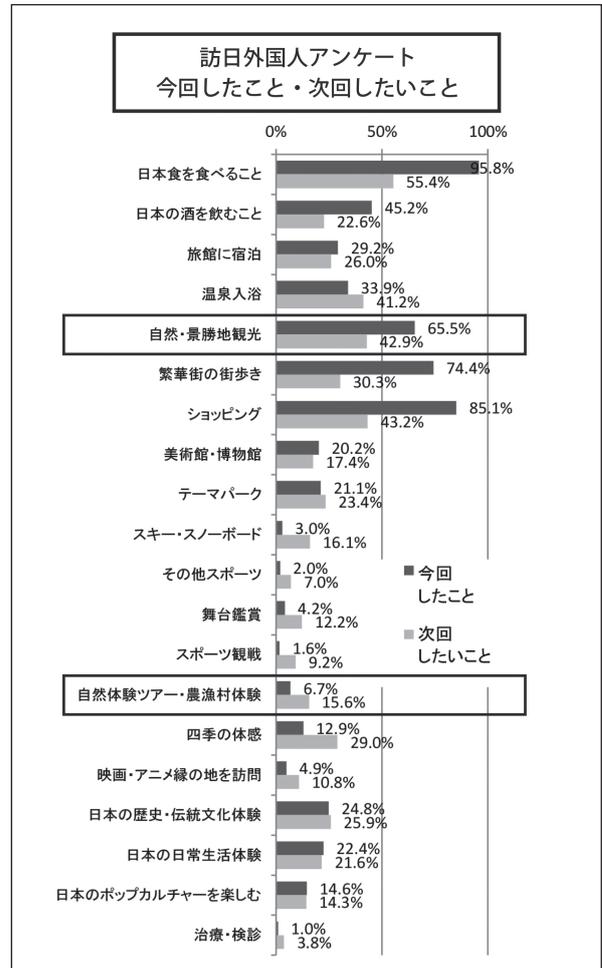


図2：外国人旅行関係者(バイヤー)の関心・興味をもったプログラム(複数回答)

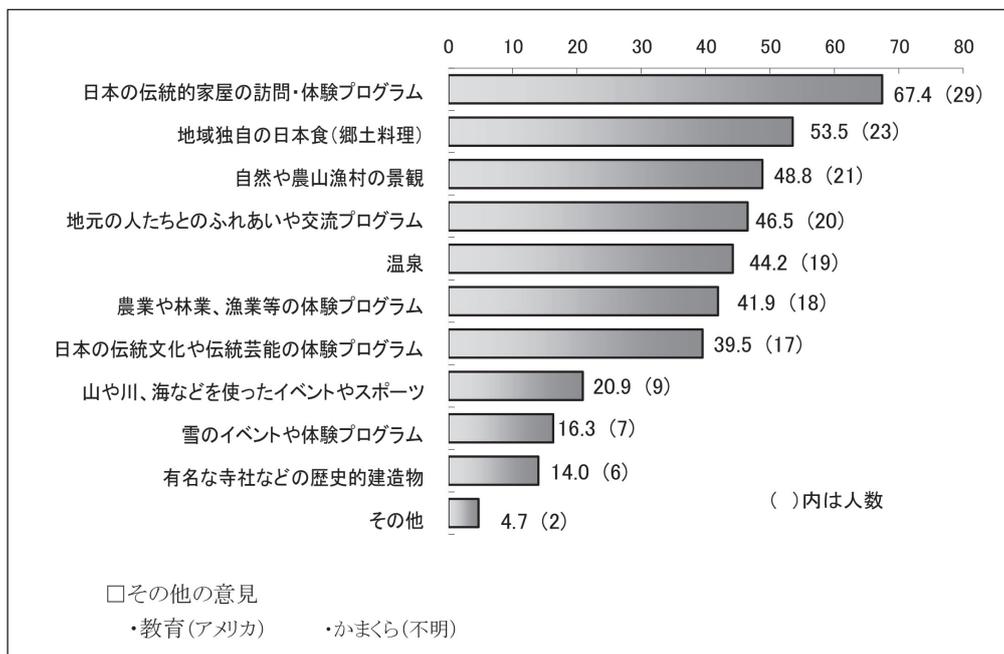


表1：図2のアンケート結果に基づいた松川村の観光資源

外国人に人気の体験	松川村での資源
日本の伝統的家屋の訪問・体験プログラム	昔ながらの日本家屋
地域独自の日本食(郷土料理)	郷土料理や、農家で採れた新鮮な果物や野菜を使った食事
自然や農山漁村の景観	松川村を取り囲む美しい山々や、田園風景
地元の人たちとのふれあいや交流プログラム	多目的交流センターや、体験交流館などの交流施設、周辺散策や農作業体験などを通じた農家の方との交流
温泉	希少な天然ラドン温泉「すずむし荘」
農業や林業、漁業等の体験プログラム	農作業体験、多種にわたる体験農園
日本の伝統文化や伝統芸能の体験プログラム	安曇野節や松川響丘岳太鼓
山や川、海などを使ったイベントやスポーツ	有明山や雨引山のトレッキング、あづみの公園での林間レクリエーション体験や溪流レクリエーション体験
寺社などの歴史的建造物	大和田神社、鈿女神社、細野神社や銅造菩薩半跏像で有名な観松院

Ⅷ. 松川村に農泊する魅力とは

受入農家の特徴

〈現状案内されているものから抜粋〉

- ・簡易宿泊所の許可を取得
- ・保健所の食品衛生講習会に参加
- ・消防署の確認
- ・グリーン・ツーリズム総合補償制度(宿舍賠償責任保険、グリーン・ツーリズム参加者傷害保険体験指導者賠償責任保険)に加入
- ・公営水道を引いており、井戸水を利用する施設はない。

(1)松川村の魅力

①男性長寿日本一の村(2013年)

長寿の90%は農作業実践・地域の野菜を食している・幸福度が高い。

〈幸福感の高い松川村の長寿の要因〉

- 家 族：家族を愛し血縁者との同居率が高い。
- 健 康：定期的に通院・健康管理・健康を意識・健康のための心がけの実践。
- 食：食のこだわりと地産地消。
- 家 計：贅沢を羨ましく思わず、慎ましく、卑下せずに生活をする。
- 自由時間・生きがい：趣味をもち、ゆとりの時間を楽しむ。
- 友 人：地域の人と交流をもつ。たまには家族

- 以外との食事や地域行事に参加する。
- 地 域：住むまちを愛する。地域の魅力をみつけ享受し共生する。
- 精神的なゆとり：不安を感じないように、お互いに助け合って生きる。
- 自然・農村：農のある暮らし・豊かな自然は生きるための多くの効果をもたらす。
- いつも感謝の気持ちを：日々の暮らしにある素敵なものに気付き、喜び、感謝する。
- ②世界唯一の「すずむし保護条例」がある。自然環境に恵まれた地域。
- ③子供を守る「安心の家」の登録が多い。困ったら村民が守ってくれる。

(2)温泉入浴(温泉入浴と泉質)

- 松川村…天然ラドン馬羅尾天狗岩温泉
泉質／単純弱放射能冷鉱泉
すずむし荘
神経痛や冷え性、疲労回復
- 大町市…大町温泉郷・上原の湯
泉質／単純温泉
穏やかな作用の優しい温泉「家族の湯」(子供、高齢者でも安心して入浴できる)
- 安曇野市…安曇野みさと温泉・ファインビュー室山
泉質／アルカリ性単純温泉

アルカリ性の温泉(pH8.5以上)は肌の汚れや古い角質を落としてすべすべ肌に肌の皮脂と結びついて石鹸のような作用。美人の湯と呼ばれているのはこのため。

(3) 農業体験・農泊の特色

- ①旬の野菜収穫体験、農作業体験。
- ②農業体験できる野菜は有機無農薬が多い
- ③食育(野菜について、食の大切さ)について学ぶことができる。
- ④ユニークな体験が多い 農家の方がそれぞれ企画したプラン(本物の農家の暮らし)を体験
- ⑤地域の文化・歴史も学ぶことができる。
- ⑥野菜嫌いが好きになる試みがされている企画がある。
- ⑦郷土料理・手料理を楽しめる。
- ⑧魅力的(北アルプスの眺望と田園)な地域にある。

(4) アレルギー食材の案内

- ・表示義務品目/特定原材料7品目(必ず表示されるもの)
牛乳・卵・小麦・そば・落花生・えび・かに
- ・表示推奨品目/特定原材料に準ずるもの20品目
あわび・いか・いくら・オレンジ・キウイフルーツ・牛肉・くるみ・さけ・さば・大豆・鶏肉・豚肉・まつたけ・もも・やまいも・りんご・ゼラチン・バナナ・ごま・カシューナッツ

IX. 今後の観光振興策への提言

1. 農山漁村滞在型旅行振興策(日本人・外国人)

百戦錬磨が運営する、合法民泊・農泊予約サイト(一般社団法人 日本ファームステイ協会 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-17-2)に加盟することが即効性と情報発信に関しては効果的。

〈長野県の加盟団体一覧〉

南木曾「ウェルネス農泊」推進協議会、茅野市農村振興協議会、朝日村自然体験推進協議会、一般社団法人信州いいやま観光局、農事組合法人蓼科農ん喜村、株式会社南信州公社、信濃町ホースプロジェクト推進協議会、信濃町農山村活性化推進協議会、一般社団法人上松町観光協会、南箕輪村農泊推進協議会、辰野町あさひ農村振興協議会、信州・松本奈川グリーン・ツーリズム推進協議

〈農泊予約サイトより〉

「STAY JAPAN(ステイジャパン)」という株式会社百戦錬磨が提供するWebサイトを通じて予約。日本語のほか英語や中国語に対応しており、「民泊コンシェルジュ」という集客サービスを利用すれば、細かなやりとりもSTAY JAPANのスタッフが代行してくれるため、ホストが外国語で電話やメールの対応をする必要はありません。

STAY JAPANでは、サイトに掲載する宿泊施設で担当者が事前に取材や撮影を行い、その施設やホストの魅力を最大限に引き出すページ作りをしてくれます。

(※中略)



2. 教育旅行振興策

下記を案内する

(1) 松川村の魅力の案内

詳細はp.209と同

(2) 温泉入浴(温泉入浴と泉質・効用)

詳細はp.209～p.210と同

(3) 松川村での滞在・農業体験・農泊がもたらすもの

- ①都会の人が憧れる田舎の魅力がすべてある
 - ・人々の心を和ませる豊かな自然環境がある
 - ・農村は日本人にとっての原風景である
 - ・新鮮な農作物と農作業は生きる喜び
 - ・植物の緑色は生きているものの象徴
 - ・水平的自然景観はやすらぎ落ち着きの世界
 - ・たくさんの動植物が生きている
 - ・良好な住環境、職住近接などのゆとりある生活
 - ・相互に交流・助け合う地域コミュニティ(生産活動を通じた結び合い)
 - ・祖先を敬い暮らしている(農家の庭先に咲く

仏壇用の花・道祖神など)

- ・田舎には「美しい自然、良い環境、良い仲間、豊かな体験、ヒト・ココロで幸せにする」魅力があり環境福祉の役割をも担っている。

②農林水産省・文部科学省が期待する教育効果が得られる体験

- ・学ぶ意欲や自立心が育まれる
- ・食の大切さを学べる
- ・思いやりの心や豊かな人間性社会性などが育まれる
- ・社会規範や生活技術が身に付く

③農業体験・農泊の特色

〈食と農〉

- ・ユニークな体験が多い
農家の方がそれぞれ企画したプラン(本物の農家の暮らし)の体験・旬の野菜の収穫体験、食する、料理教室・アウトドアクッキングなどができる
- ・農業体験できる野菜は有機無農薬が多い
- ・食育(野菜について、食の大切さ)について学ぶことができる
- ・野菜嫌いが好きになる試みがされている企画がある
- ・郷土料理・手料理を楽しめる

〈文化歴史〉

- ・地域の文化・歴史も学ぶことができる
- ・歴史ある建物・昔ながらの古い建物・ユニークな宿泊施設
- ・生活文化体験ができる

〈風光明媚〉

- ・魅力的(北アルプスの眺望と田園)な地域にある

〈交流〉

- ・親密な交流がある
- ・ホストのホスピタリティ

〈参加しやすい〉

- ・リーズナブルな料金
- ・アクセスの良さ

(4)アレルギー食材の提示

詳細はp.210と同

3. 選ばれる地域になるための取組み(イタリアの事例から)

- ①地域の絶景が資産
- ②地域の特産品の有効活用

③自然の資源と共存可能な発展に則している
〈イタリアの農泊の特色〉

- ・非日常を演出
- ・美しい景観
- ・多様な宿泊施設
- ・地産地消・安全な食
- ・料理教室と教育農園
- ・地域特有の体験
- ・地域の伝統文化の紹介

〈イタリアの食育のテーマ〉

- ・食料の生産・流通を教える
- ・味覚・栽培・料理法の伝承
- ・地域との交流(農家・住民との交流)
- ・食に理解ある消費者を育てる
- ・子どもたちが大人になった時に自分の力で食べ物の選択ができる消費者へと導く

X. 二次交通についての課題と5つの対策(提案)

1. 信濃松川駅乗降者数と観光客数の現状(次頁表2参照)

- ・1日の乗降者数は10月、11月上旬は1日約60名
- ・11月下旬になると減少する
- ・大町・白馬から247名(45.5%)、松本方面から296名(54.5%)
- ・観光客／大町・白馬方面から98名、松本・安曇野から97名とほぼ同数の観光客
- ・信濃松川駅降車客の36%は観光客
- ・降車の観光客は徒歩、あるいはタクシー利用にてちひろ美術館へ

2. 観光施設までの二次交通についての課題に対する5つの対策(提案)

- (対策1)あづみ野周遊バス「ちひろ線」の運行増便
- (対策2)生活・福祉バスと観光バスの共有
- (対策3)ちひろ美術館による送迎
- (対策4)観光タクシー利用による安曇野周遊観光の推進
- (対策5)レンタルサイクルの推進と安曇野サイクリングコースの設定・推進

表3：あづみの周遊バス「西回りちひろ線」乗降者数(2018年4月～11月)

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	合計
	運行日数	3	5	0	21	31	30	23	4	117
乗	穂高駅	51	125	0	334	636	252	153	50	1601
	ちひろ美術館	17	44	0	108	294	74	52	16	605
	鈴玲ヶ丘	0	10	0	16	10	6	4	1	47
	有明山神社	7	18	0	46	74	33	13	8	199
	松尾寺	0	2	0	7	22	9	0	0	40
	天満沢	1	9	0	19	57	15	5	10	116
	vif穂高	16	7	0	67	98	30	30	13	261
	アートヒルズ	18	23	0	84	157	66	32	6	386
	アルプス公園	33	69	0	79	113	38	25	6	363
	合計	143	307	0	760	1461	523	314	110	3618
	降	ちひろ美術館	28	75	0	237	524	186	115	32
鈴玲ヶ丘		2	6	0	9	23	3	7	3	53
有明山神社		7	22	0	47	54	23	21	8	18
松尾寺		2	1	0	6	14	2	1	0	26
天満沢		1	9	0	19	49	7	7	0	92
vif穂高		5	7	0	40	91	23	14	5	185
アートヒルズ		10	30	0	43	115	77	16	3	294
アルプス公園		21	34	0	43	63	39	35	5	240
穂高駅		67	123	0	316	528	163	98	54	1349
合計	143	307	0	760	1461	523	314	110	3618	

対策2. 生活・福祉施設と観光施設を周遊させる
生活・福祉バスと観光バスの共有

【事例】香川県直島

平成14年7月乗客数8.2万人から22.5万人にアップ

観光施設と生活・福祉施設(農協・役場・中学校・幼稚園・福祉センター・診療所・生協)を經由。

観光客増にともない便数が増えた。

〈町営バス〉

家プロジェクト⇒「本村港」「農協前」「役場前」での下車を案内

ベネッセアートサイト直島⇒終点「つつじ荘」下車。各美術館へは屋外作品を見ながら徒歩、または、ベネッセ場内シャトル(無料)で移動帰りは再び「つつじ荘」に戻り、町営バスに乗車を案内。

(診療所・福祉センター・役場・農協 経由)

図4：バスの周遊ルート例

停留所名	所要時間
① 地中美術館 (Chichu Art Museum)	3分
② ベネッセハウス(ミュージアム) (Benesse House (Museum))	3分
③ つつじ荘 (Tsumtsuji Lodge)	4分
④ つり公園 (Fishing Park)	2分
⑤ 積浦 (Tsumuura)	3分
⑥ 本村港 (Honmura Port)	1分
⑦ 農協前 (Agricultural Co-operative Office)	1分
⑧ 役場前 (Town Hall)	2分
⑨ 中学校前 (Junior High School)	1分
⑩ 幼児学園 (Kindergarten)	1分
⑪ 福祉センター下 (Foot of Welfare Center)	1分
⑫ 福祉センター (Welfare Center)	1分
⑬ 東宮ノ浦 (East Miyanoura)	1分
⑭ 横防 (Yokobou)	1分
⑮ レファシード直島 (Refashido (Naoshima Nursing Home))	2分
⑯ 宮浦港 (Miyanoura Port)	2分
⑰ ふれあい診療所 (Fureai Clinic)	1分
⑱ 生協前 (Co-op)	1分
⑲ 鷺ノ松 (Washinomatsu)	1分
⑳ オノ神 (Sainokami)	1分
㉑ ヘキ (Heki)	2分
㉒ 正門前 (Mitsubishi Materials Entrance)	3分
㉓ 直島環境センター (Naoshima Environment Center)	3分
㉔ 有価金属リサイクル施設 (Incinerating and Melting Plant for Recycling Waste)	3分

家プロジェクトへはこの3つの停留所をご利用下さい。

所要時間区間: 12~16分 (①-⑦), 6分~11分 (⑧-⑮), 8分~11分 (⑯-㉔)

対策3. ちひろ美術館による送迎

不便な場所にある美術館の対応

【事例】島根県安来市 足立美術館〔島根県安来市〕

①広域生活バス利用

イエローバス（安来市運営広域生活バス） 2018年3月17日改正
 ご利用の際は鷺の湯温泉前バス停（美術館まで徒歩1分）にて下車してください。

安来駅発	09:03	09:40	10:06	11:08	11:30	12:30	12:59	14:48
鷺の湯温泉着	09:22	10:05	10:25	11:27	11:51	12:55	13:23	15:05
鷺の湯温泉発	10:04	11:05	11:39	12:40	13:35	14:15	14:57	16:05
安来駅着	10:22	11:35	11:58	13:10	13:57	14:36	15:17	16:25

②足立美術館無料シャトルバス(1日17往復)

〈ホームページでの案内内容〉

公共交通機関、また近隣の宿泊施設をご利用のお客様は、JR安来駅より無料シャトルバスを運行しています。お気軽にご利用ください。

定員28名です。満席の場合はご乗車できません(先着順・予約不可)。

交通事情により予定時刻に運行できない場合があります。



対策4. 観光タクシー利用による周遊観光の推進

【事例】JR 駅から観タクン

1台 3時間7,500円(JR九州)

プランのご案内

- 1時間 3,500円コース (左世保のみ)
- 2時間 5,000円コース
- 2時間 7,000円コース (長崎A・B、ハウステンボスA・B)
- 2時間 9,000円コース (由布院のみ)
- 2時間30分 6,500円コース (単人B、指宿D)
- 2時間30分 7,000円コース (指宿Eコースのみ)
- 2時間30分 9,000円コース (日田のみ)
- 3時間 7,500円コース (鹿児島中央、森入B、油津B)
- 3時間 9,000円コース (阿蘇B・Cコース)

※発着の場所に応じて、時間が短くなるケースもあります
 ※観光施設への入場料や昼食代は含まれておりません
 発売場所：JR九州の主な駅及び九州内の主な旅行会社

〈観光タクシーの提案〉

- ・信濃松川村から安曇野周遊タクシー
1台 3時間7,500円
- ・信濃松川駅～安曇野ちひろ美術館～大王わさび農場～穂高駅 3回乗車 1台 5,000円
- ・信濃松川駅～穂高駅までの範囲 松川村～安曇野市への利用は1回のみ

(実際の予想料金)

JR 東日本信濃松川駅から安曇野ちひろ美術館
 予想タクシー料金730円
 安曇野ちひろ美術館から大王わさび農場
 予想タクシー料金3,880円
 穂高駅から大王わさび農場
 予想タクシー料金820円
 合計 5,430円

対策5. 安曇野サイクリングコースの設定・推進
—2次交通の不便さを広域サイクリングコースの設定にて解消—

- ・サイクリング愛好家向けの企画と2次交通の不便さを解消
- ・信濃松川駅～安曇野ちひろ美術館～安曇野周遊～穂高駅
- ・走行約15kmの季節に応じたサイクリングコースの設定
- ・季節の花・湧水・美術館・その他観光施設・レストラン・カフェ・蕎麦店・道の駅などを楽しむ
- ・松川村・安曇野市のレンタルサイクル店と連携する

【事例】 しまなみレンタサイクル 広島県尾道市



(※モデルコースなど資料省略)

図5：平成29年度サイクリング・ツーリズムを中心とした調査報告
 (中国経済産業局)より

